

【案①】逃走ゲーム（仮名）

ゲームの手がかりとなるマップを参加者へ配布し、海岸線に常設された防災無線で指令を発する。指令の内容は、参加した後に振り替えると「避難場所へ到着していた」など、防災色が出ないように内容を盛り込む。このプログラムは、防災無線が稼働するかの確認を兼ねて実施することができるようにした。また、まち全体で統一のカラーを使っの広告をすることで、雰囲気づくりにも力を入れたいという意見が出た。

【案②】スタンプラリー

集めたスタンプの数に応じて景品の数を変え、個々の所要時間（暇つぶしなど）にあった参加をすることができるようにしたい。

また、ただのスタンプだと魅力が少ないと考え、ここでしか貰えない、貰ってうれしいスタンプ（顔面スタンプ・T シャツにスタンプを集めてオリジナルT シャツをつくる・日焼けスタンプ・大き目のスタンプなど）を設置。（⇒スタンプの内容によっては、別途景品を用意しなくても、参加をしながら持って帰る景品を作り上げることも可能）

また、普通のスタンプラリーをするのではなく、実施する地域の避難所や危険箇所などを自然と盛り込んだラリーポイントを地元住民と共に考え設定することを目的とした。そのことによって、参加者だけでなく地元住民も地域を再確認することができる。

【案③】告知方法の工夫

オレンジフラッグ（「オレンジフラッグ」とは、日本財団と全国各地の団体でつくる「渚の交番プロジェクト」が津波注意報・警報発令時に波の音や風の影響に左右されない視覚的な避難合図として、全国各地で認知を広める活動が行われている新しい津波情報の伝達手段）の普及を兼ねて、イベント告知に関わるものを全てオレンジ色にし、まち全体で告知を行う。ただのチラシだけでなく、割引券をつける、紙ではなく「うちわ」や「カイロ」「マスク」など手に取ってもらえて、告知に目を向けてもらえるような仕掛けを盛り込む。